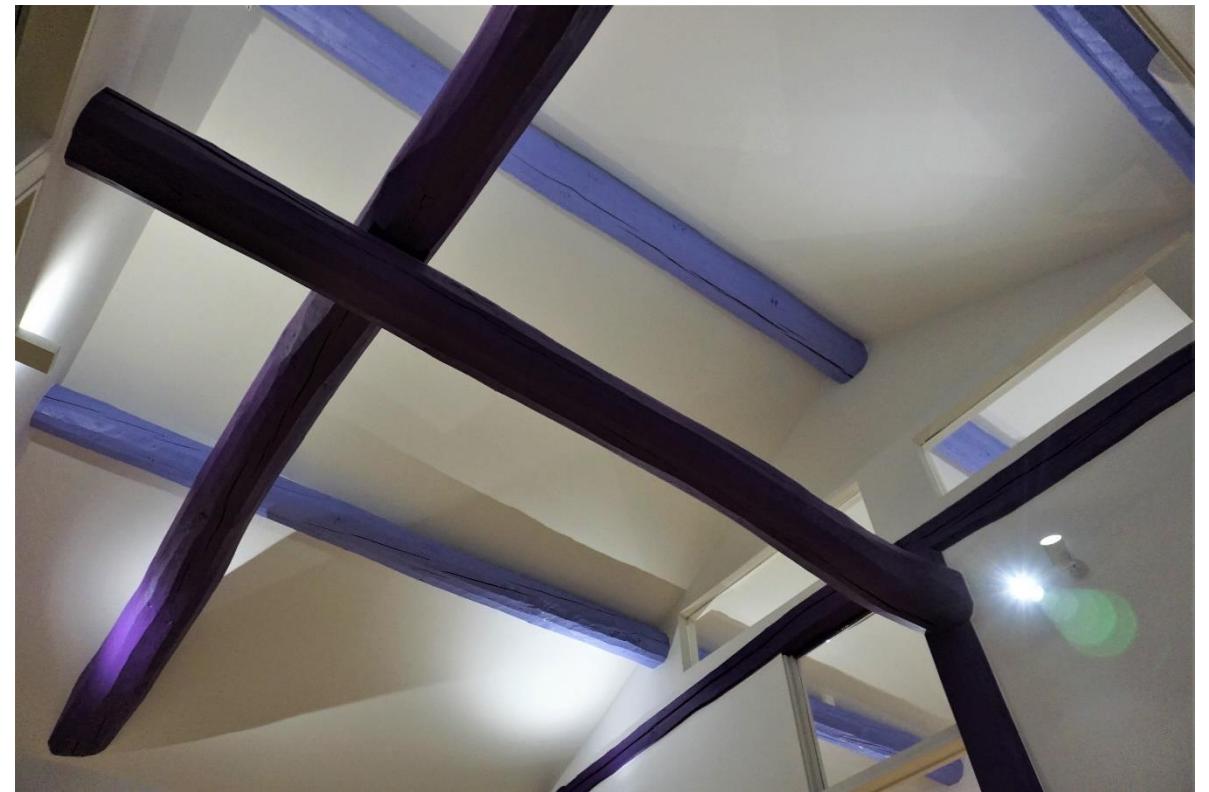


ヴィラ デ ブランカ インターナショナル
VILLA DE BLANCA INTERNATIONAL

古民家移築蘇生による企業寮・ゲストルーム
Dormitory, guest rooms by reviving old house Japan



株式会社アルファブランカ
ALPHA BLANCA Co., Ltd

プロデューサー：株式会社アルファブランカ 代表取締役会長 坂下志郎
Shiro Sakashita, ALPHA BLANCA Co., Ltd
ディレクター デザイナー：株式会社アーバンガウス研究所 池上俊郎
Toshiroh Ikegami, URBANGAUSS

福井県若狭町での企業の寮及び国内外来客の宿泊施設プロジェクト。
良好不使用木造伝統的古民家を移築し、耐震性・断熱・防音・雪害対策等現代求められる居住性能を満たし蘇生する計画。
工場スタッフ並びに来客の居住環境の向上としての福利厚生視点に加え、歴史性未来性を内外空間に表し地域に寄与する。
企業の社会的責任として行った。

Corporate dormitory and guest room project in Wakasa-cho, Fukui Pref.
Relocated and revived an unused good traditional old wood house.

Residential performance meets earthquake resistance, heat insulation, sound proofing and snow damage measures.
In addition to the welfare viewpoint, we express beautiful historicity and futurity in regional space.
Implemented as Corporate Social Responsibility.

- 1: デザインの背景：ブライダルドレスの製造拠点を展開する施主は国際拠点化を進める上で、社員寮・ゲストルーム新築に伴い、立地する人口減少地域への未来貢献を考えた。
- 2: 経緯と成果：築130年の町内古民家を譲り受け、豊かな空間を活かし、共同住宅新築確認申請下、現代機能・性能を内外空間で充足し、記憶の蘇生を図った。オープンスペースの地域のポケットパーク化を図った。
- 3: 結果：地域の歴史性を踏まえた居住性能・外部空間充実、新規性未来持続性のある空間の実現により、社内・地域行政に企業行動が再認識・高評価された。又、住み手のいない日本の伝統的古民家ならびに良好な古木材再活用新たな機会を創出した。

2018年7-8月に、若狭町内外で約30件の候補古民家を調査した。プロポーションの良好な、建築骨格のしっかりした民家を譲り受けた。130年前に茅葺寄棟屋根建築として創られ、70年前に移築2階切妻・1階寄棟屋根に替えられた作業所兼住居であった。簡易梯子で登る2階には8畳程度の養蚕スペースのみあり、複雑な小屋組の梁が頭上近くに展開した。1階ワンルーム4戸、2階ゲストルーム2戸の新機能の空間の適用の検討を行った。移築に伴い共同住宅新築の確認申請をした。内外部空間は、建築の構成状況を分析し、解体前の豊かな空間を骨格として生かすことを心掛けた。

古民家利用建築の独自の取組みについて。
日本の伝統的古民家の改築は、全国で様々な試みがされている。ネイティブな日本人の試みだけでなく、異邦人の試みも多い。
基本的に、オーナー利用・現地での改築・確認申請の対象外の同一機能である。今回は、寮・宿泊施設として不特定多数の利用者が対象である。隔離された個室群の住戸居住性能が、耐震性・遮熱断熱・防音・雪害対策・防虫害対策等として求められた。これらから移築に伴い建築確認申請は、共同住宅新築工事とした。現地・解体・移築後、平立断面において基本構成の維持、旧素材の再利用可能性を検討した。基礎は礎石をべた基礎に、内部の真壁工法は大壁工法とした。すべての部材について旧素材の再利用可能性を平立断面に渡って現地・解体移築後とも検討した。1階では、約20cm角の旧大黒柱2本が維持され、他は新調した。2階の小屋組みの多くを維持し、白い室内にあって茅葺時代の墨色梁は紫色に、切妻時代の白木の棟木は藤色とし、往時の記憶を抽象化した。庭園部に思い出深い梁をベンチとして設置した。積雪厳冬期の短期間施工、コストも事業整合性として検討された。

これまで古民家修復に使われることの少なかった金属素材の屋根外壁への使用は、新たな市場を開くと思われる。また、基礎や構造、防音断熱性能の扱い、良好な古木材への着色使用等、より自由な古民家利用の手法の拡張を行うと考える。



東南外観：。共同住宅新築の確認申請をした。1階30㎡寮4戸、2階ゲストルーム2戸が1戸建てのヒューマンスケールで展開する。アプローチテラス・庭園部が町のポケットパークとして開かれる。



南外観：ブライダルドレス企業であることから内外空間全体の基調色は白色となった。厳冬期の積雪対等から建築の屋根・外壁は白い鋼板とした。内部空間は、建築の構成状況を分析し、解体前の豊かな空間を骨格として生かすことを心掛けた。

130年の過去から
130年の未来へ！

持続可能な一
モノづくり企業・
人口減少地域一
の未来を、

社員寮拡充を機会とし、
使われなくなった
古民家の蘇生により
美しいまちづくり
として解く。



築130年の古民家の豊かな空間。
記憶の抽象象化蘇生を図った。



既存寮も白色で塗装し一体化し、外部空間に物語性をもたらししている。企業敷地の将来全体計画に適合し、開かれた豊かな地域空間創りとなった。

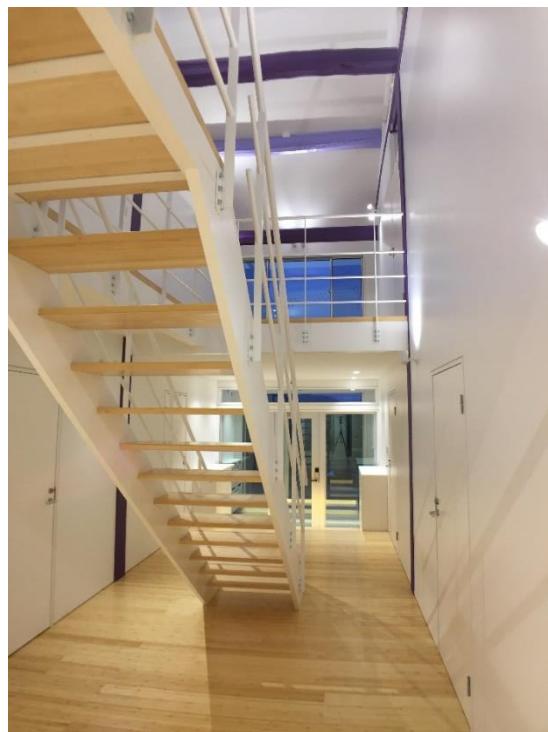




1階 ROOM4 ワンルーム寮 約30㎡：キッチン並びに姿見背面に、風呂・洗面・洗濯・ワードローブ・トイレを直線配置している。寝・食・居間スペースの最大化シンプル化を図った。住戸間仕切り壁が1階の東西方向構造壁となる。



2階 ROOM6 ゲストルーム北内観：長期逗留者を予測し、キッチンが用意されている。受け継いだ古民家梁・棟木などを現した。古民家に存在した古材のダイナミズムを伝えている。



1・2階 階段ホール 内部コミュニケーションスペース。壁；AEP塗装白 床；竹フローリング 茅葺時代の墨色梁は紫色に、切妻時代の白木の棟木は藤色とし、古民家の記憶を抽象化した。階段ホール両サイドの壁が2層にわたる南北方向の構造壁となる。



アプローチテラス：新旧館を結ぶ。多目的コミュニケーションスペースとなる。



敷地西端より見る：西庭園部より、東アプローチテラスへとオープンスペースが続く。町に開かれたポケットパークである。



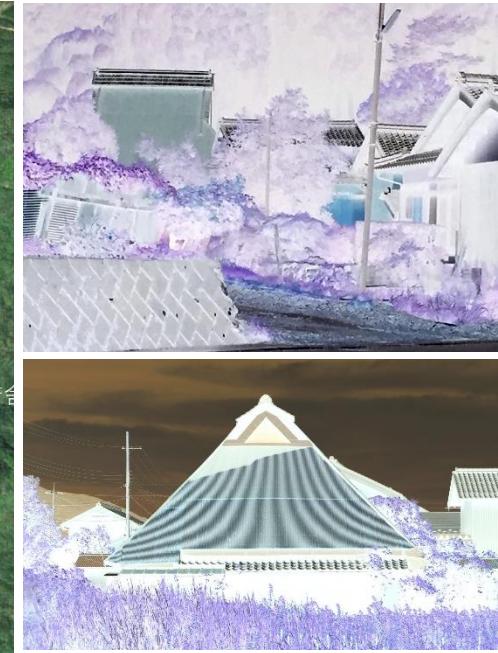
ベンチ；形状的には魅力あるものであったが、建築で使用できなかった梁である。左写真下部。左写真上部梁は、ROOM6の紫色の梁架構となった。

西庭園部：屋外コミュニケーションガーデンとして設定。ブライダルドレスメーカーであるので、ジューンブライドを意識し、白い花にこだわった。6月頃に白い花が咲くヒトツバタゴを植栽した。近隣から調達した石の方向性を読み休憩できる庭石として配置した。

デザインが生まれた背景：

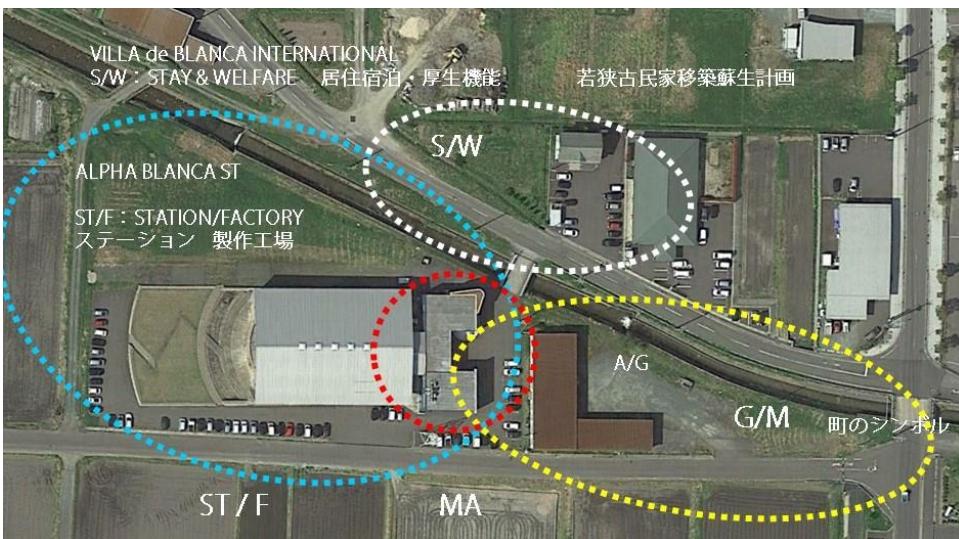
縄文遺跡の残る三方五湖近くの福井県若狭町に位置する。福井県は幸福度日本一である。しかし人口1.5万人の町に、300戸の空き家が存在し、地域疲弊回避が探られている。ALPHA BLANCA社は、ブライダルドレスの製造拠点を1980年代からこの地に展開する。総合的な製造・研究・開発・アーカイブ・教育の国際拠点化をブライダルデザイナー桂由美とともに、ブライダルの聖地“WAKASA YUMI BLANCA LAND”計画として地域に根差す進行を探る。今回工場スタッフ寮並びに国内外のVIP・インターンのゲストルームを建設するにあたり、立地する人口減少地域への未来貢献を考えた。

有効な方法かつ企業の社会的責任として何が可能かを探った。宿泊・居住環境の向上としての福利厚生視点に加え、地域へ具体的に歴史性を有しかつ未来を志向する内外空間供給の提供を検討した。結果、町内の良好な未利用古民家を譲り受け移築・蘇生する事、オープンスペースを地域のポケットパークとする方針となった。



1.5万人の町に、300戸の空き家存在する。譲渡可能な30数軒の候補民家を訪ねた。良好な民家が展開するが、集落に住み手がいない状態が続く。平地の限界集落化が展開する。これら古民家には、今となっては貴重なCO2を固定する木材資源のストックがある。

西面全景眺望：1994年グッドデザイン賞受賞工場ALPHA BLANCA STとの関係。



“WAKASA YUMI BLANCA LAND” 計画：町の中に町を創る。企業機能の内外私的空間が公共的に町として機能し、地域に貢献する予定である。

田畑の中から、きれいだ・住みたい・働きたいまちを創る。持続可能な地域・空間を美しいデザインから生み出す。

ブライダルの聖地は、ブライダルドレスの“産地”を目指す。

若狭町古民家移築蘇生対象建築：

2018年7-8月に、若狭町内外で約30件の候補古民家を調査した。プロポーションの良好な、建築骨格のしっかりした民家を譲り受けた。130年前に茅葺寄棟屋根建築として創られ、70年前に移築2階切妻・1階寄棟屋根に替えられた作業所兼住居であった。2階には8畳程度の養蚕スペースがあり、複雑な小屋組の梁が頭上近くに展開する構成であった。



譲渡対象建築：福井県若狭町瓜生地区古民家



象徴的小間から玄関土間方向を見る。



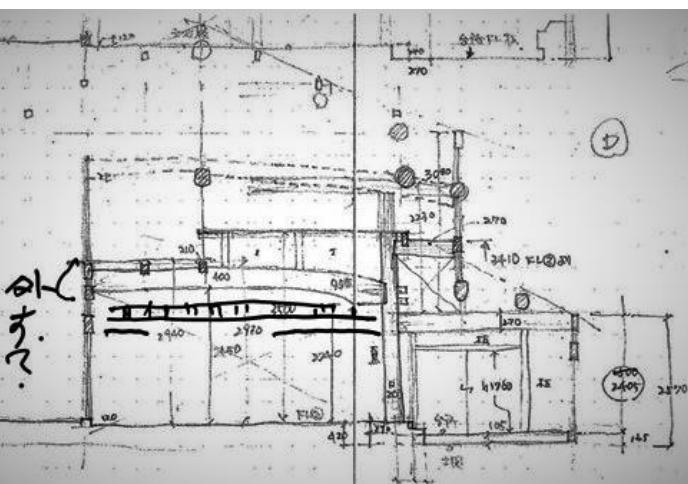
住居部の構造壁検討。



養蚕スペースより玄関土間上部を見る。



茅葺寄棟屋根構成梁の使用可能性検討。



スケッチによる階高・使用可能梁の検討。



作業場兼夜間居間食事スペース。

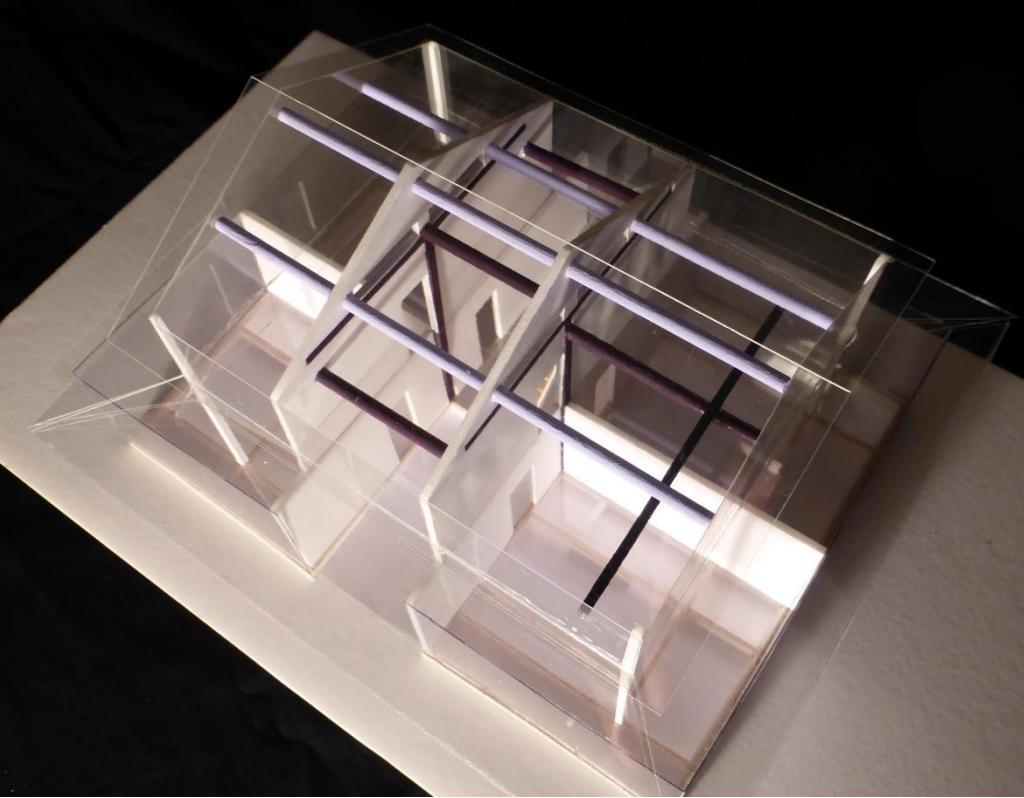


解体状況：作業場より住居側を見る。



小屋組み：切妻・寄棟屋根素材が交錯。

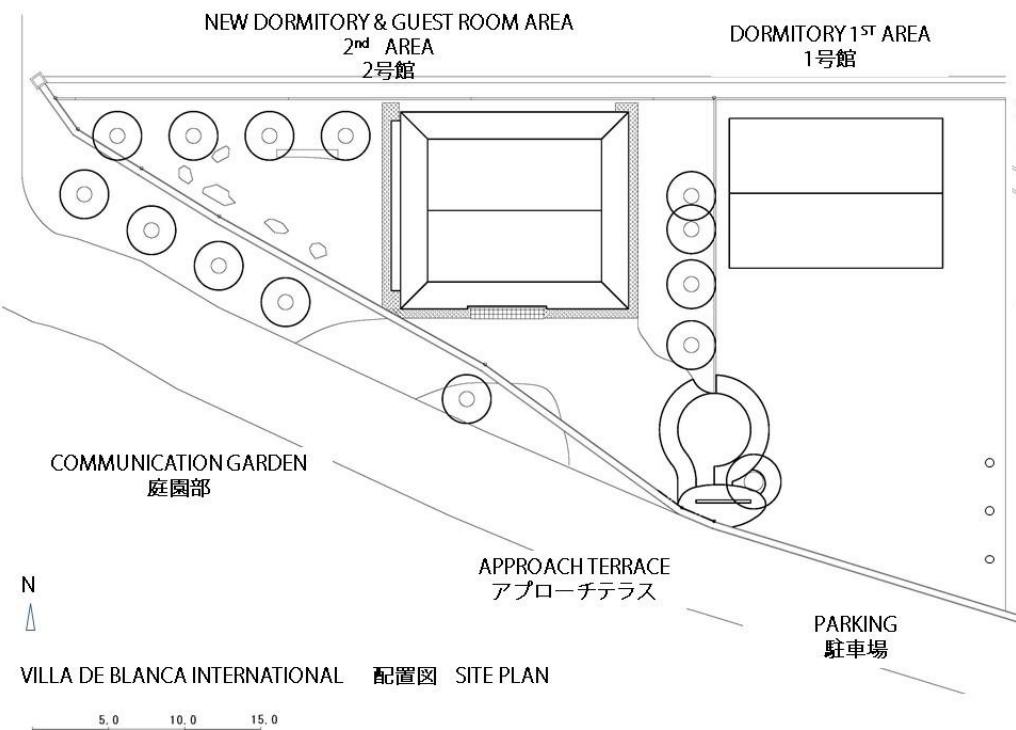
茅葺寄棟屋根建築と切妻建築の合体した複雑な構成を、新機能に整合させ、移築後の施工精度の適切性・耐震性能の担保に腐心した。各部位に関して、スケッチと写真から検討を加えた。解体された現場は阪神大震災の現場と同様に壁、屋根は土に覆われていた。移築建物では軽量化が求められた。



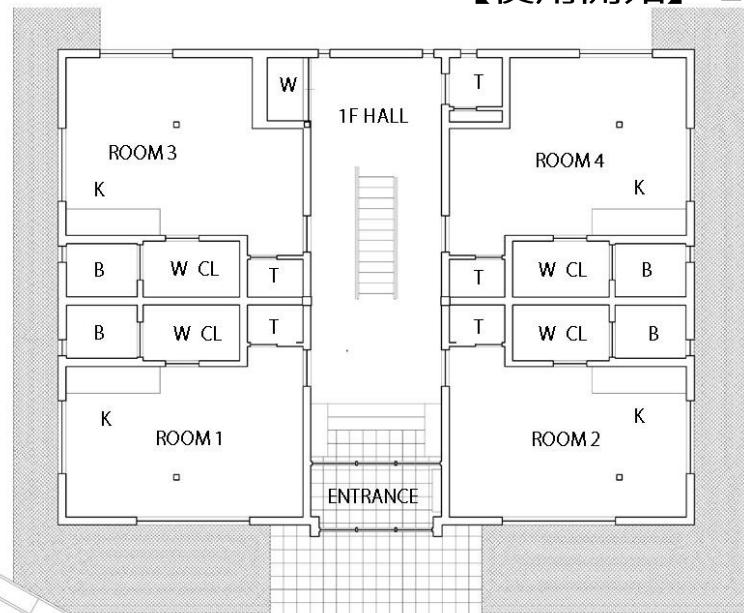
【所在地】 福井県三方上中郡若狭町北前川29号
 【建築概要】 建築確認申請：共同住宅新築工事 敷地面積：613.83㎡
 建築面積：154.85㎡ 延床面積：227.80㎡ 床面積：151.23㎡ (1階) 75.45㎡ (2階)
 構造：木造2階建 (小屋組み等古民家木材使用) RCべた基礎
 【外部仕上】 屋根・外壁：遮熱ガリバリウム鋼板t=0.4/0.35mm横葺き
 門型フレーム：アルミアルマイトパネル 軒裏：76mmケイ加板
 サッシ：アルミ樹脂複合サッシ 硝子：Low-e硝子 樋：高機能雨樋
 アプローチ床：磁器質タイル300*300土間コンクリート鋳押しえ
 犬走及び排水溝：5色豆砂利
 庭園部 芝生 樹木 (ジャカランダ ヒトツバタゴ 花梨
 ヒイラギモクセイ サツキ) 庭石配置
 【内部仕上】 床：竹フローリング 壁・天井：AEP及び高機能壁紙
 古民家木材頭し部： SOP塗装 (茅葺屋根時代部：紫色 切妻屋根時代部：藤色)
 【使用開始】 2019年4月16日 【総事業費】 ¥61,000,000

建築概要 及び 設計図

南立面図



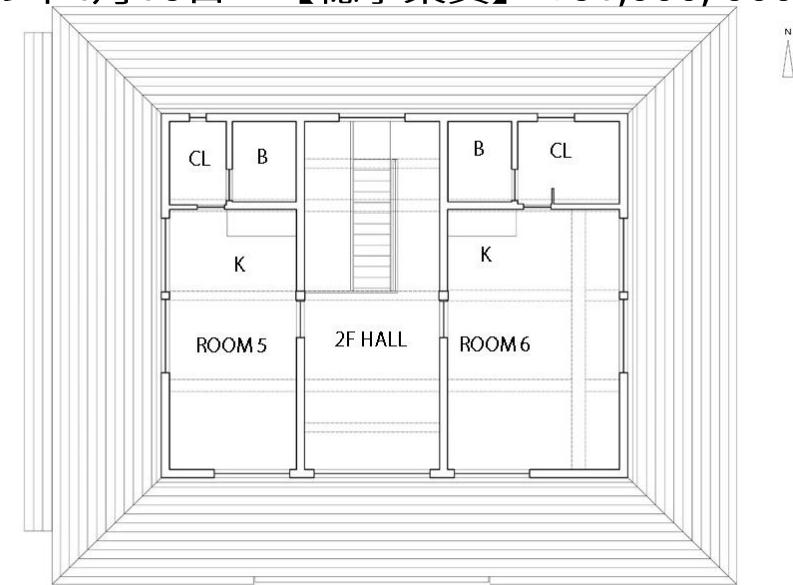
配置図および新旧館屋根伏せ図



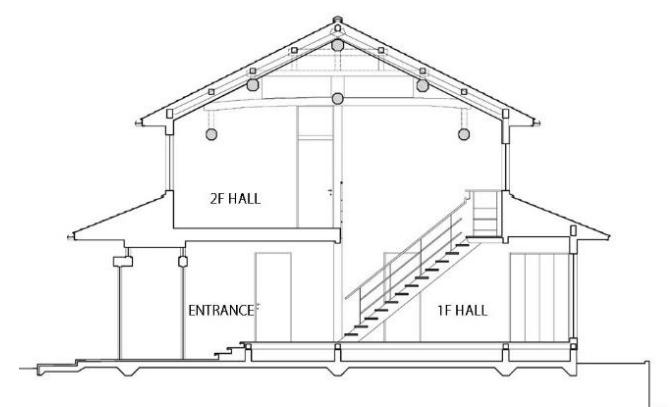
1階平面図



南立面図

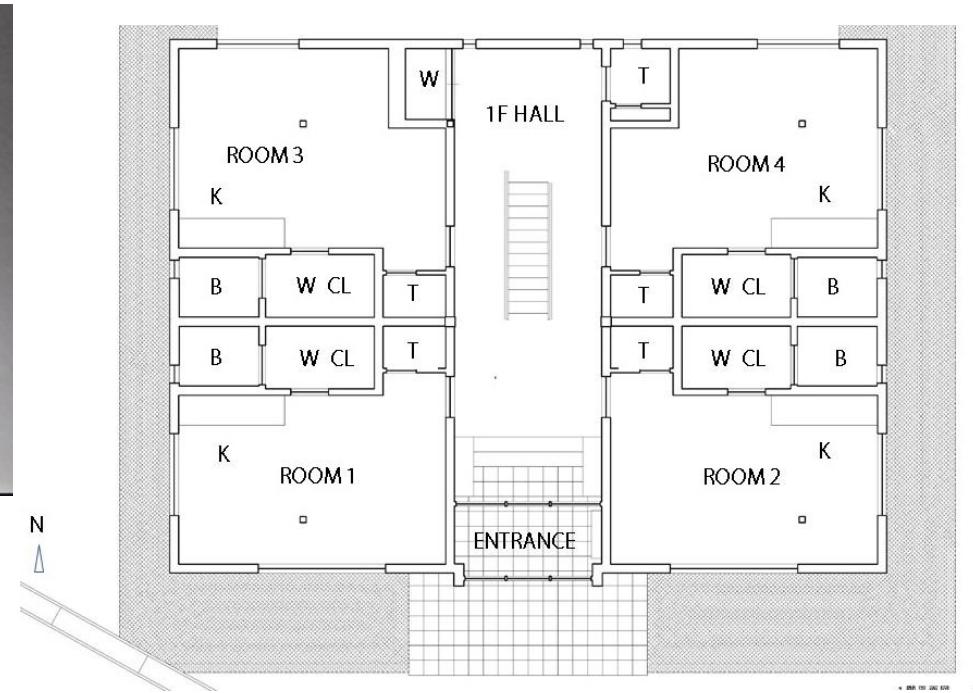


2階平面図



南北断面図

配置図は、今回応募対象の新館 (2号館) と旧館 (1号館) を一体表記している。アプローチテラス、庭園部の外部空間を1体利用し、まちの外部空間としている。新館は、1・2階ともシンプルな構成とした。階段ホールのコミュニケーションスペースを中心に、1階寮4室・2階ゲストルームが展開する。



建築構成及び新旧建物構成比較：

寮・宿泊施設として不特定多数の利用者が対象である。個室群の住戸居住性能が、耐震性・遮熱断熱・防音・雪害対策・防虫害対策等として求められた。

建築全体のプロポーションは基本的に踏襲し、平立断面を調整することとした。

内部空間は、建築の構成状況を分析し、解体前の豊かな空間を骨格として生かすことを心掛けた。

新機能整合・移築後の施工精度の適切性・耐震性能・厳冬工期厳守、施工、コスト等事業整合性を検討した。

古民家の中間部の玄関土間及び象徴的小間を新建物の玄関・階段ホールとした。

上下階を結ぶ2層の共有スペースを創り、1階東西南北に各30㎡4寮室を配し、2階東西にゲストルーム2室を配する方針とした。

階段ホール両サイドの壁が2層にわたる南北方向の構造壁となり、1階住戸間界壁が東西方向構造壁となる基本構成とした。大黒柱は床下37cmで切断し、階高を上げた。

1階平面は東平面基本形に基づき西に増築し、東西平面を同一化した。1階屋根は古民家の基本形に整合し、西部で下屋を設け増築部に対応している。

2階平面・屋根は古民家と同一とした。4隅には新たに通柱を設置した。

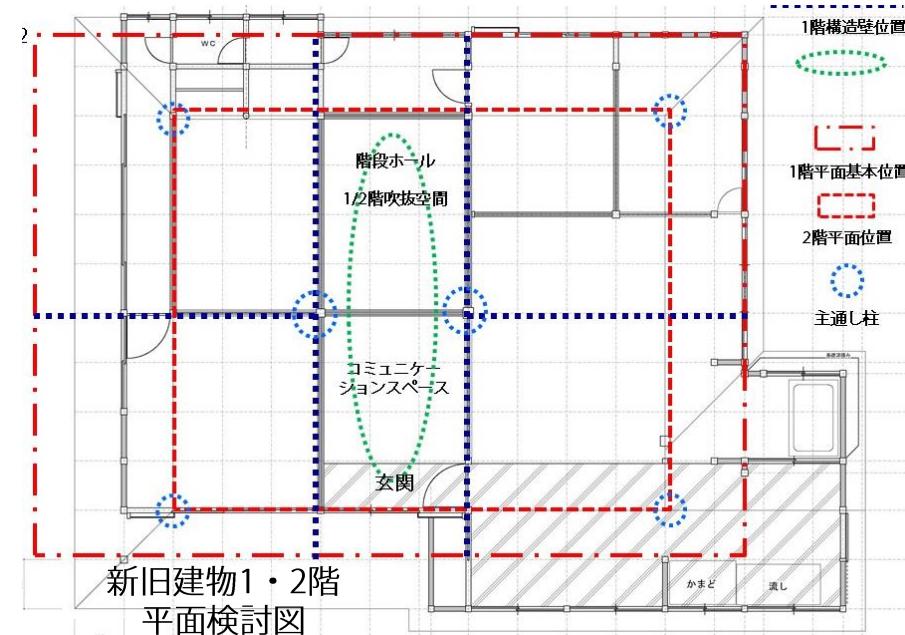
1階寮は、シンプルなワンルーム化を図った。キッチン並びに姿見背面に、風呂・洗面・洗濯・ワードローブ・トイレを直線配置している。寝・食・居間スペースの最大化を図った。

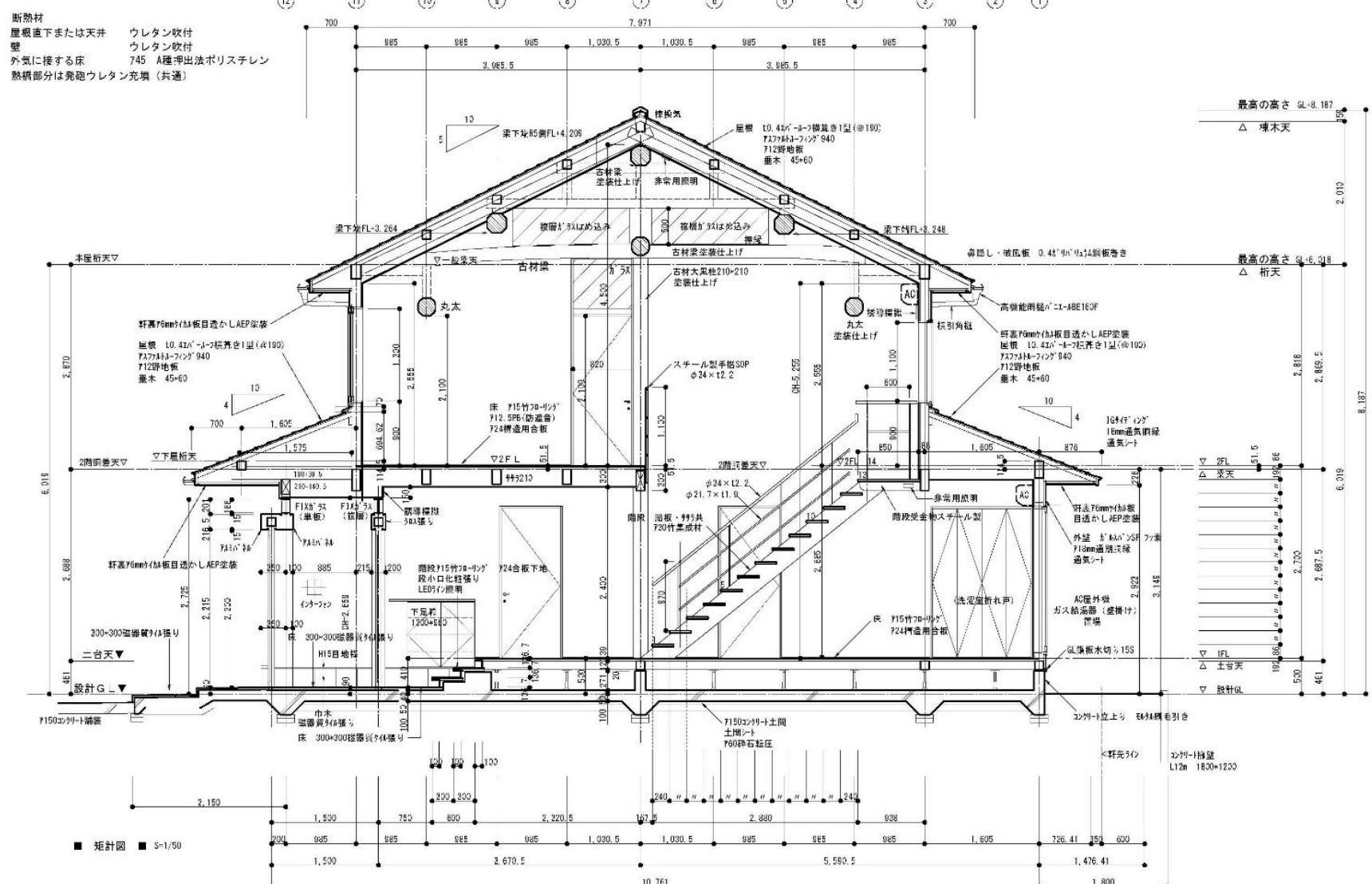
2階は、受け継いだ古民家梁・棟木などを現し、コミュニケーションスペースである階段室、ゲストルームとして展開する。

ROOM6では、空中にあった茅葺時代の梁を高さ調整の上、同一平面に再現した。

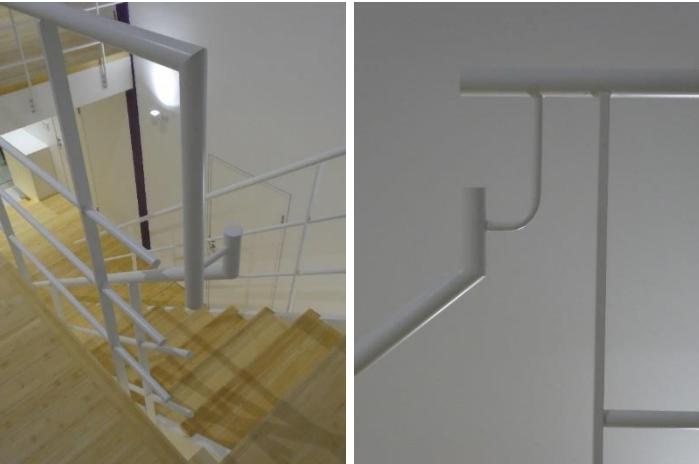
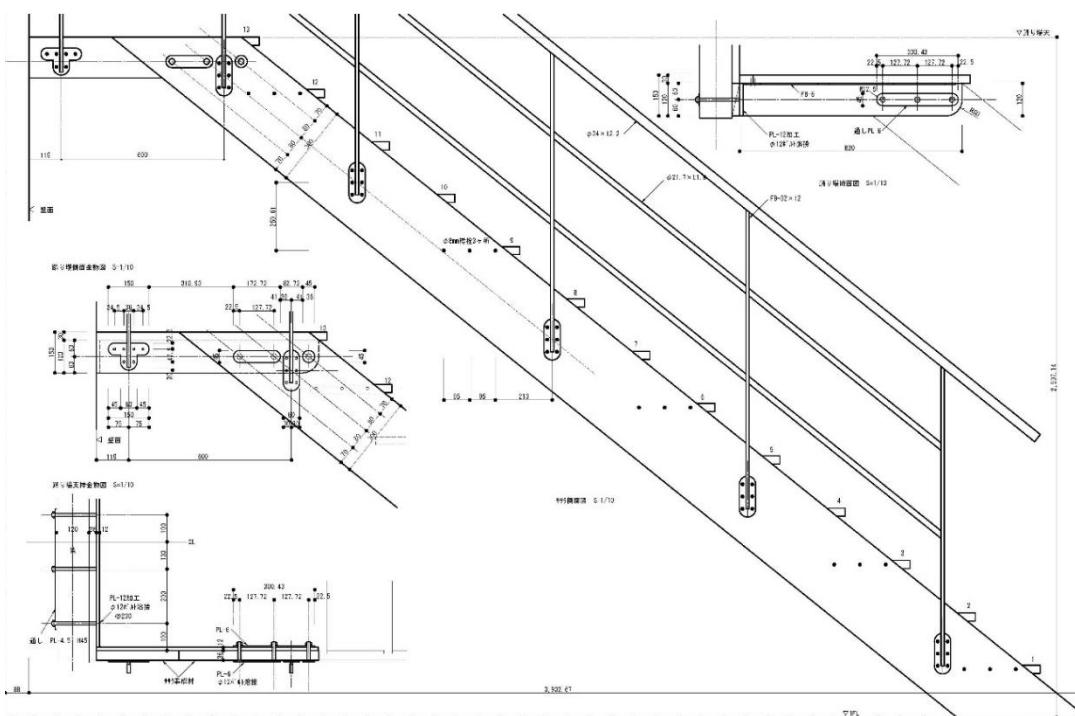
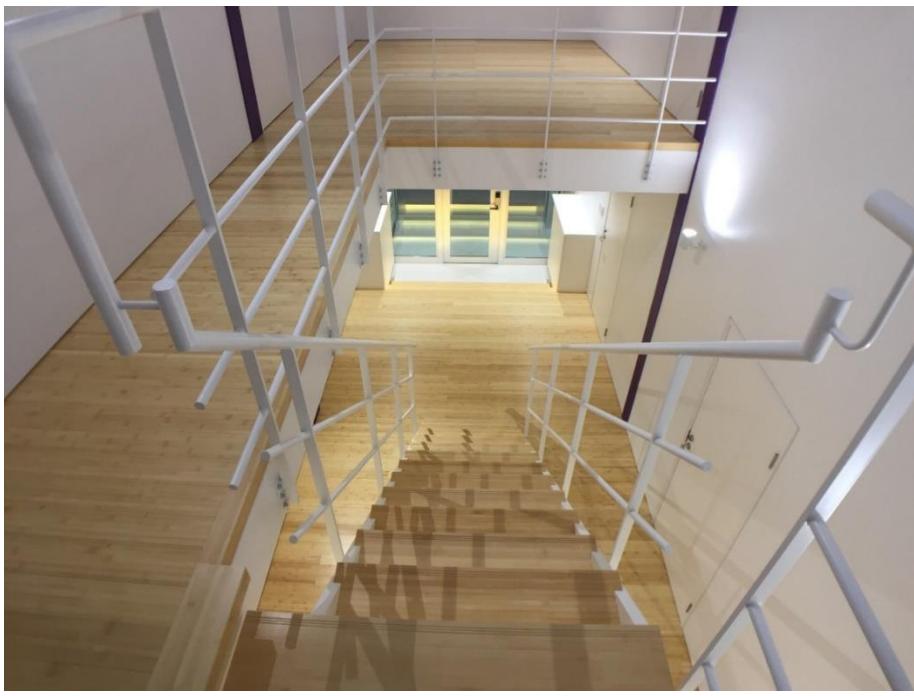
国際インターン等長期滞在来客に備え、2階ゲストルームは、キッチンが用意されている。1階には共同トイレ・洗濯機が用意した。

移築に伴い“共同住宅新築工事”で建築確認申請をした。礎石がべた基礎に、内部の真壁工法は大壁工法とした。





断面詳細図



階段詳細図 及び 階段詳細

上：階段室見上げ。 下階段見下ろしと詳細。

階段部詳細；手摺 STΦ34 手摺子 ST32*12